

# 国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
314	国際政治経済学演習 (山崎眞次)	通年	3年以上：4単位	山崎 眞次 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

マイノリティ・ナショナリズムの研究

授業概要  
Course Description

冷戦終結後の紛争は、国家間の争いより国家内の民族対立から多くが発生している。民族対立の大半は主権国家に対する国内少数派（マイノリティ）の異議申し立てである。紛争の原因は、宗教・習慣・言語等の違いから惹起される文化的摩擦、自治権・自決権の公平性や拡大という政治的要求、財源の公平な分配や地下資源の開発権等の経済的要求など、その紛争が起こる国や地域によって多岐に渡る。

なぜエスニック・マイノリティは主権国家に異議を唱えるのか、彼らの主張に正当性はあるのか、主権国家の対応は適切であるのかを検証し、問題の本質を理解した上で、紛争解決策を模索するのが、本演習の目的である。担当者は長年ラテンアメリカの地域研究に従事してきたので、その経験を演習では生かすつもりであるが、研究対象をラテンアメリカに限定するものではない。

キーワードとしては、人権、マイノリティ、民族紛争、多文化主義、ナショナリズム、リベラリズム、コミュニタリアニズム、先住民、ジェンダーなどがあげられる。

授業の  
到達目標  
Objectives

本セミナー参加者が、セミナーでの輪読、発表、ディベートを通じて、日常的に差別、侵害、暴力に晒されている民族的・社会的マイノリティの現状を認識し、そのような弱者の痛みを和らげ、問題を共有し、政治的、経済的、司法的、社会的解決策を提言できる能力を養うことにある。

授業計画  
Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：提出された課題の検討
- 第3回：ナショナリズムの定義1
- 第4回：ナショナリズムの定義2
- 第5回：ナショナリズムの定義3
- 第6回：ナショナリズムの定義4
- 第7回：ナショナリズムの定義5
- 第8回：エスノナショナリズム1
- 第9回：エスノナショナリズム2
- 第10回：エスノナショナリズム3
- 第11回：エスノナショナリズム4
- 第12回：エスノナショナリズム5
- 第13回：エスノナショナリズム6
- 第14回：エスノナショナリズム7
- 第15回：春学期理解度の確認
- 第16回：リベラリズム1
- 第17回：リベラリズム2
- 第18回：コミュニタリアニズム1
- 第19回：コミュニタリアニズム2
- 第20回：多文化主義1
- 第21回：多文化主義2
- 第22回：多文化主義3
- 第23回：ポストコロニアル研究1
- 第24回：ポストコロニアル研究2
- 第25回：ポストコロニアル研究3
- 第26回：ポストコロニアル研究4
- 第27回：ジェンダー1
- 第28回：ジェンダー2
- 第29回：ジェンダー3
- 第30回：理解度の確認

教科書  
Textbook(s)

加藤普章・吉川 元編、「マイノリティの国際政治学」、有信堂、2000年

参考文献

Reference Book(s)

3年生の基礎文献

B．アンダーソン「想像の共同体」、A．スミス「ネイションとエスニシティ」、A．ゲルナー「民族とナショナリズム」、C．テイラー「マルチカルチュラリズム」、W．キムリッカ「多文化時代の市民権」、J．バージャー「世界の先住民族」、山崎眞次「メキシコ民族の誇りと闘い」、E．サイド「オリエンタリズム」、江原由美子、山田昌弘「ジェンダーの社会学入門」、目黒依子「ジェンダー・システムと少子化」

評価方法  
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	30 %	学年末に提出する研究計画書。
平常点評価 Class Participation	60 %	2回の発表とディベートへの参加。
その他 Other	10 %	ゼミ合宿への参加。

備考  
Note

学生に対する要望：マイノリティ問題に強い関心をもつ学生をもとむ。

関連URL

URLs for References

<http://members3.jcom.home.ne.jp/yamasin/>

<http://www.waseda.jp/sem-minoritygis>